

[シラス]

1. 経年経過及び平成18年7～8月期の漁況の経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では平成11年の5,450トンを一ピークに減少傾向を示し、平成14、15年と1,000トンを下回り低調に推移しました。平成16年は3,507トン、平成17年は3,368トンと比較的好調に推移しました。

志布志湾海域では平成12年の1,407トンを一ピークに減少傾向を示し、平成14年は396トンまで減少しましたが、平成15年は842トンまで増加し、平成16年は1,180トン、平成17年は1,147トンと比較的好調に推移しました。

今期の西薩海域では、カタクチシラス主体に151.5トンの水揚げで、前年の49%、平年の50%でした。志布志湾海域では、カタクチシラス主体に205.3トンの水揚げで、前年の124%、平年の143%でした。

2. 平成18年10～12月期の見とおし

漁獲の主体は、カタクチシラスでしょう。来遊量は、西薩海域、志布志湾海域とも平年を上回り、前年並みか前年を上回るでしょう。

(根拠)

春漁期の漁模様との相関から、今期の漁獲量は比較的高い水準で推移すると考えられます。

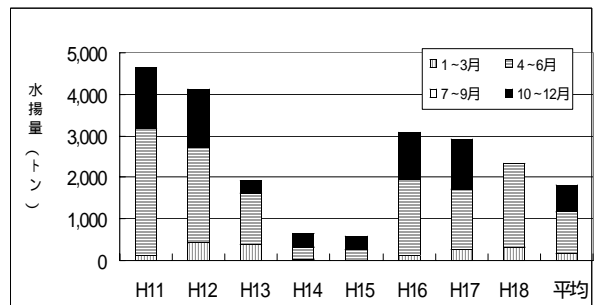
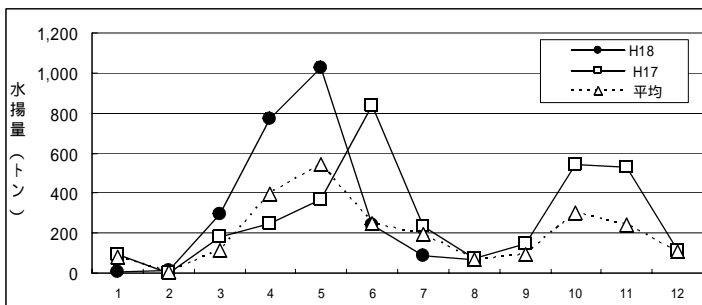


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(4漁協計)

平年値は過去5年(平成13～17年)の平均値,平成18年8月までの水揚げ量を使用。

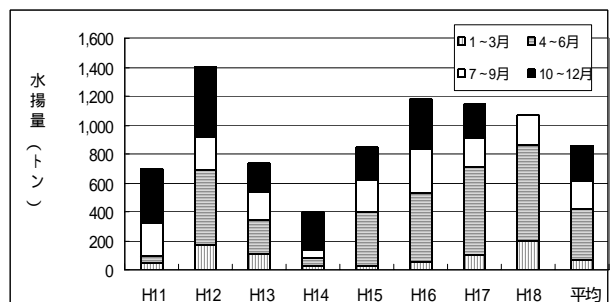
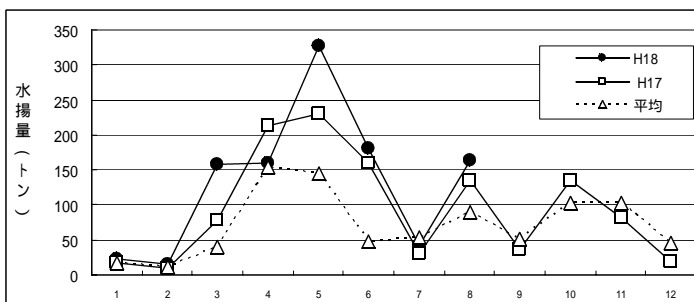


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

平年値は過去5年(平成13～17年)の平均値,平成18年8月までの水揚げ量を使用。